

乙亥八月廿五日

本年八月二日付、以御達相成候當使報告書編輯例則案別冊、通取調致進達候也

明治九年九月二十日

南拓長官黑岡清隆

右大臣岩倉具視殿

開
打
使

開拓使報告書編輯例則

第一條

報告書ハ一期年間施行セシ事務ノ要領及官吏ノ負數
雇外國人ノ職務給料諸般ノ經費等ヲ集メテ之ヲ編ミ
以テ施治ノ成績ヲ徴スルモノトス故ニ其體裁極メテ
簡明的確ナルヲ要ス

第二條

報告書編輯ノ年度ハ甲午七月ヨリ乙午六月マテヲ以
テ一期トシ一期ノ後本支廳東京出張所等各局課ヨリ
一期年中施行セシ事務ノ要領ヲ具申セシメ湊合シテ

之ヲ摘録シ題シテ開拓使第何期報告自明治何年ト曰至同何年
ノ編成ノ期限ハ一期年ノ後後三月月ヲ過クヘカラス

第三條

編輯ノ例則ハ其概畧ヲ掲ケテ體要ヲ示スト雖モ施治
ノ體裁ニ應變更スルバハ又之ヲ増減セサルヲ得ス故
ニ每期編輯ノ際注意斟酌スルヲ要ス

第四條

官吏ノ進退外國人ノ雇免等其諸多端ナリト雖モ報告
書ハ簡明切要ヲ要スルヲ以テ唯其事ヲ記スル
事大綱ヲ掲グルヲ以テ故ニ其事項間々經費ハ明合セサ

ルモノアルモ亦妨ナシトス

第五條

事務ノ要領ハ各項部類ヲ分テ標題ヲ掲ケテ之ヲ録シ
中央ノ集數在外國人ノ職務給料諸般ノ經費及其他量
數等ニ係ル者製シテ表トス

第六條

書中物品ノ量數等ヲ記スル貨幣ハ釐位ニ止メ穀類ハ
合位ニ止メ銀地ハ歩位ニ止メ路程ハ間位ニ止メ其他
其例ヲ推シテ少數ヲ省クヘシ

第七條

一期年中施行セシ事務ノ要領測地測量牧畜漢獵採集
等ノ如キハ各項部類ヲ分チ標題ヲ掲ケ其要ヲ

撮テ之ヲ記スヘシ仍チ左ノ五項ヲ掲
キ其例則又示シ若シ其事各表ト関涉セハ第何表ニ
詳ナリ或ハ第何表ト參觀スヘシ等ノ語ヲ加フヘシ

地方實檢

未開ノ地ヲ墾闢スル等ノ舉アラハ巡視ノ為メ派遣
スル官吏ノ姓名實檢スル土地ノ形勢及ヒ物産ノ有
無ヲ録シ其既ニ着手セルモノハ施行方法ノ概要ヲ
記スヘシ

農業

各地ニ於テ草木菜蔬穀類栽培ノ方法ヲ試驗スル
ヲ其實況ヲ審ニシ及ヒ其種ヲ購入セシ國名等
ヲ記スヘシ

牧畜

各地ニ於テ牛馬羊豚等ノ牧養方法ヲ試驗スル
ヲ其實況ヲ審ニシ各獸ノ種類其頭數ノ増減及ヒ
其購入セシ國名等ヲ記スヘシ

養蠶

各地ニ於テ養蠶ノ方法ヲ試驗スルヲアラハ其種類

陽抄

卯紙ノ枚數製糸製種ノ方法並ニ其量數等ヲ記スヘシ

採鑛

各地ニ於テ採鑛等ノ業ヲ興スニアラハ其山ノ位置
日開鑿ノ方法鑛物ノ種類品位ノ良否出產ノ多寡等
ヲ詳記スヘシ

第七條

表ノ部類ノ分目及製シ順次号ヲ附ス其式樣左ノ如
シ表中解シ難キモノヲハ表末ニ訓解ヲ附シ官負表
ノ類ハ年月日ノ現負或ハ年月日調査ト記スヘシ

官吏並兵卒等ノ負ハ乙卯年六月三十日ノ現數ヲ記シ前年六月
三十日ノ現數ト比較シテ其増減ヲ見スヘシ

第 表

官吏及兵卒ノ負數			
勅	奏	判	等外
總	計	合計	前年比較
即用武	雇	巡查	屯田兵
減	増	減	増

雇外國人ノ職務給料等ヲ記スル官吏表ノ例ニ准スヘシ

第 表

[illegible]

第 表

[illegible]

戸口ハ男總數ノ下ニ男女並移民等ヲ分テ乙
年六月ノ現數ヲ記シ前年六月ノ現數ト比較
シテ各項其増減ヲ見スヘシ

學校病院ハ官公私生徒醫費ハ官費私費ヲ
分チ乙年六月三十日ノ現數ヲ記スヘシ

第 表

學校病院				
廳名	學校	生徒	病院	醫員
總計				

租税ハ各種品目ヲ分チ一朔年間徴収セシ負數ヲ記スヘシ

第 表

租税			
税目	金負	税目	金負
總計			

第 表

官有船名	私有船名	新製船名
------	------	------

船舶ハ西洋形ノミヲ掲ケ蒸氣風帆ノ別且名號噸數明有
人名及一期年間新製ノモノ記スベシ

第 表

經費	本	本金種類	金負	費目	金負
		拂			
總計					

徑費心精算、爲定帳ニ據リ、餘畧シテ其要ヲ掲クヘシ

金 金 金 金

100

天

1890

九年正月二日

乙亥後三

東京之筆

拙者儀

張

中
一
三
リ

七月廿五日東來奉獲北海道子鶴

國出卷

此處用田滿吐一白濁系及來

此為國性良也

明正九年十月一日

開拓長官黒田清隆

古大匠者負其神慶

太史公三修實美版

11167

石

44